

[平成30年度講演会] 新津春子氏を講師に 『羽田空港を世界一綺麗な空港にして』と題して

清掃のプロとして仕事観・人生観、技術指導も含め講演頂く

平成30年度講演会が、3月6日(火)15時より、総会が開催された横浜市開港記念会館において、当会会員及び市内公募から参加頂いた事業者も含め107名が出席し開催されました。

清掃を行う会員が増えれば増えるほど正しく横浜は綺麗になっていくという訳です！



当会事業企画委員森優子氏の司会で始まり、当会を代表して鈴木一男会長(写真左)より「ご多忙の所お集まり頂きありがとうございます。今日は、会員だけではなく初めての方もおられますので、当会の案内もさせて頂きたい。当会は、法人を中心に91会員で構成されております。港町横浜を世界一美しい街にしようという気持ちからスタートしました。その原点は清掃だと言う事はお気づきの事と思いますが、この会の構成メンバーは中小企業、大企業で構成されておまして、特に、中小企業のメンバーの方々は自ら自分の会社を清掃し、そして、社内だけではなく会社の廻り、出来れば自分の会社がある町内を清掃する。そういう会員が増えれば増えるほど正しく横浜は綺麗になっていくという訳で

す。こうした中で、年に2回一斉清掃を行っています、その時には会員みんなが集まって清掃をしています。

私は、この会が間違いなく5年後10年後には世界一綺麗な港町を構成すると思っています。と言うのは、5年の歳月を掛けてきて横浜市内の方々に認知され、その輪が広がっているのが証しです。これからの5年は大変ですが、また、新しく色々な方々と協力し合いながら、世界一綺麗な港町にしたいと考えています。本日は学ぶところが沢山あると思いますので、皆様にとって有意義な時間になります事を祈念いたしまして挨拶と致します」挨拶されました。

講師の紹介に入り司会より、本日は『羽田空港を世界一綺麗な空港にして』～清掃のプロとして仕事観・人生観～と題して日本空港テクノ(株)環境管理部環境マイスター新津春子氏に講演頂きます。講師のプロフィールですが1970年中国残留日本人孤児二世として、中国瀋陽に生まれ17歳のときに渡日され、高校に通いながら言葉がわからなくても出来るという理由で清掃の仕事始めて以来、25年以上清掃の仕事に携わっておられます。

1995年に日本空港テクノ株式会社に入社。ビルクリーニング技能士、清掃作業監督者などの国家資格を取得。最年少で全国ビルクリーニング技能競技会1位に輝くなど、努力を重ねてこられました。現在は羽田空港国際線ターミナル、第1、第2ターミナル清掃の実技指導に加え、同社ただ1人の「環境マイスター」として、羽田空港全体の環境整備に貢献するとともに、次代のマイスターを育てる活動も行っておられます。

こうした実績が話題となり、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」や日本テレビ「NEWS ZERO」『世界一受けたい授業』、『金スマ』、「たけしのニッポンのミカタ!」などにも出演され、また、著書も執筆されるなど多方面でご活躍されております」と紹介しました。講演に入る前に、日本空港テクノ(株)佐藤次長より会社の紹介が行われました。



当時は日本と中国は 50 年の差がありました。

子供たちを絶対に日本での暮らしをさせようと一家全員で日本にきました！

「私が日本に来たきっかけは、残留孤児の二世で、中国瀋陽で生まれましたが、生まれた当時は生活が苦しく、瀋陽は冬になるとマイナス 35 度まで下がります。海もなく平らな土地で風が来ると痛くなります。何よりも食べ物がない時代でした。頑張っても、頑張ってもやっと今日、明日のご飯が食べられる状態でした。肉類などは 1 週間に 1 回食べられるかどうか、飴とチョコレートもない時代でした。

電化製品もなく、テレビも 4 年生の頃は白黒が出たくらで、あとは何にもありませんでした。電気もあまりなく、夜は町中が真っ暗になります。全て蝋燭で生活した時代でした。家には釜が 1 個あって、その釜でご飯を炊いたり、煮物も作っていました。主食はコーリャンとトウモロコシでした。トウモロコシもカビが生えていたり、砂が入っていたりしていますが食べられる事が幸せでした。今日のご飯も食べられない状況でした。こうした生活をしていましたが、火の起こし方、ご飯の炊き方、掃除の仕方、家族全員でやらないといけませんでしたが、そういう事を行なった事が今に繋がっています。こうした事を小さい頃に自然と覚えましたが日本にはないと思います。

日本に来るきっかけは、お父さんが日本に来た事があり、当時は日本と中国は 50 年の差がありました。日本には何でもある状態だったので、お父さんがそれを見て、子供たちを絶対に日本での暮らしをさせようと思い、中国に戻り直ぐに日本への渡航の手続きをして、一家全員で日本に来ました。

日本に来た時、家族も私もこんな環境があるんだと驚きました。中国では人民服でしたので、こんな鮮やかな服を着ている人がいる。こんな明るい顔をしている人が居るんだと思いました。日本食も綺麗で、見ているだけで食べるのが勿体無いと思いました。何を見ても新鮮さがありました。

こうした状況を見て私の欲望は一気に膨み此处で頑張れば手に入れられるなと思いました。

中国では物もなく頑張っても翌日のご飯が食べられるか食べられないかで、頑張れば食べられるだけの事でした。家事の手伝い等で遊び時間も楽しむ事ありませんでした。

中国では日本人は悪い人と思っています。当然私も悪いと思われ苛められたりしました。日本に来たときに全部違うと思ったので、一生懸命頑張れば手に入ると思い頑張ってきました。

しかし、日本に来てこそ甘くはありませんでした。言葉は通じない、考え方が違う。日本人にも悪い人もいます。そうすると私はこの世に何で生まれたのだらうと思いました。生まれた時代がいけないと思ってしまいます。でもそうなった時に、中国人の考え方ですが、生まれたらしょうがない、生まれたからには自分の道を作っていく他はないと思い、何れは新津さんが居ないと困る、居

てほしいといわれるようになる事でした。

頑張って色々な事をしてきましたが、その時にその当時の事を思い出します。新津さんは居なくても良いと言われるのが怖いので、生まれた後は自分なので私の努力によって、人から言わせないことも可能と思い頑張りました。それだけの話です。

当時の経営者の方は私が言葉は分らない、良い人が悪い



人かも判らない。当時は中国から悪い人も来ていて私も犯人扱いされたこともあるので、前進のみでバックする事は許されず出来ることをやっていく、一つだけでも認められる事、自分の居る場所を作りたかったのです。

私は精神的には他の人よりはるかに強いと思っています。苛められたら苛め返すのではなく、何らかの形で返す。自己主張が強くこれは自分の良いところだと思っています。

今の社会は精神的に弱い子が多いので、自分なりのサポートをしたら良いのではと思っています。実際に私が体験した事で今でも行っています。羽田空港には10何社の清掃会社があってそこで定期清掃、特別清掃、特殊なものも全部やってきましたので、この会社に入る前に技術的なものも全部出来ていました。



「貴方は優しさが無い」あなたの拭き方はこのテーブルに

敬意をはらっているのか、其れがあなたの顔、行動に現れていると言われました！

会社に入るときにはアルバイトなのに既にインストラクターでした。この会社の良いところは頑張りたい人には技術的にサポートする所があり、相性が良かったのかも知れません。

既に、亡くなられた常務は学校の先生でしたので先生に頼んで空港に入れてもらいました。私は常務に紹介していただいたので、出来る事を覚えていこう、出来れば何も言われなくてもいいと思えました。

毎月研修にも行かせてくれました。全部覚え常務の教えも全部覚ええました。今の私に繋がりますが、中国も悪いのではないのですが団体性はあまりありません。自分は自分という人が多いのです。私は、日本人の優しさ、それを常務から教わりました。

特に羽田空港は広く76万平米あります。1日頑張ってもやれないところが沢山あります。一人ではどうにもならないので、人とのコミュニケーション、相手への思いやりが大事で、其処まで考えた事ありませんでした。

大会でも自分が出来たから選ばれたとしか思っていない、それがいけなかったのです。常務は『貴方は優しさが無い』とはっきり言われました。何がいけないのかと思ひ喧嘩売っているのかとも思いました。このテーブルは誰が作ったのかといわれました。あなたの拭き方はこのテーブルに敬意をはらっているのかと言われました。ただ、拭いているだけで其処まで考えていません。『其れがあなたの顔、行動に出ている』といわれました。

その東京大会では2位でした。考えてもいませんでした。

直ぐに教えてもらい自分も修正しましたが、1位を取りたいと思うと集中力が出てきます。その時にそれをクリアしようとした時に、何故力が出たのか私には判りませんが、全国大会で1位を取った時これで死んでも良いと思えました。

入社して3年目に全国大会に出たときに、3年間何一つも褒められた事もない、研修に行けばかりいて、物



事を知らない人間でした。

借金が膨らみ、私まだ返せないんですと言ったら、お金は良いからとりあえず頑張れと言われていて、認められれば給料が上とる思い、それで返せると思っていたら返済しなくても良いと言われ気持ちが一気に楽になりました。皆におめでとうと言われたり、わざわざ来られて握手を求められたり、これで皆に認めてもらえる。やってきた事が正しかったんだと思いました。

そして、もっと認めてもらいたいと思いました。

タオルを使用した掃除の仕方、身体の使い方、

絞り方、拭き方について実技指導頂きました！

仕事でお客様に接しますが、羽田に来るお客様には1回しか来ないお客様も沢山います。お客様にどんな印象を残せるのかそれを考えています。そうすると、例えばテーブルを拭く時も考えないで行動をすると、自分の行動も大きくなり抜けもします。ただ、手を動かしているだけになります。そうすると、身体も疲れるし自分も辛くなります。

テーブルを綺麗に拭いてあげるとテーブルが『ありがとう』と言っている気がします。気持ちを、心を込めなさいと常務が言うから、テーブルは喋らないが人間扱いをすればよいと思いました。

喋らない人も居るのでテーブルと同じに考え、私のほうから聞けば良い、そういう感じで出来るものはやるようにしました。

皆で頑張っているのに私の名前ばかりが出ます。そうではなくて、私が出来ないところが沢山ありますが、皆でやっているから空港全体が綺麗になるのです。一人の力は微々たるものです。それを自分だけでと思ったら大間違いです。

空港は、毎日が問題なく終わることが大切ですが実際には其れが難しいのです。毎日起こさないようにする事が大切です。しかし、社員が少なく私は4人前の仕事をしていました。やらないと現場に穴が開き私の責任になり維持する事が大切でした。何事もなかった日は『みなさんありがとう』その一言が、この会社に居たいと思う気持ちです」と話されました。

引き続き実技指導に移り、タオルを使用した掃除の仕方、壁やテーブルを拭くときの身体の使い方、タオルの絞り方、拭き方について実技を行い「雑巾は役に立たないので学校は全部変えようと思っています」と話されながら指導頂きましたが、無駄な動き方はしないなど、なるほど合理的な方法と言える内容でした。

また、参加者との会話を大切にしたいとの希望から、質疑の時間を多く設け、トイレの掃除の方法、オフィスの掃除の仕方、汚れている場所の清掃の仕方などについて応答頂きました。予定した時間もオーバーして16時20分まで講演を頂き、後藤元信当会副会長より謝辞が述べられ、拍手のうちに「平成30年度講演会」も閉会となりました。

